

# 責任ある原材料調達 102-12,102-15,103-1,103-2



資源保護、環境保全や安全、人権などに配慮した原材料を調達するとともに、トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、よりサステナブルな原料調達をめざします。

ESG キーワード

CSR 調達 (ESG 調達)

持続可能なパーム油・パーム核油の調達

ミルリストの公開

小規模パーム農園の支援

持続可能な紙・パルプの調達

Sedexの活用

サプライヤー満足度調査

## 社会的課題と花王が提供する価値

### 認識している社会的課題

製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊、生物多様性の損失が大きな課題になっています。

また、原材料やサービス等を提供するサプライチェーンにおける労働者の人権の保護、安全・衛生管理、原産地の地域住民の強制移住、健康被害なども喫緊の課題になっています。

### 花王が提供する価値

花王の事業は自然資本に大きく依存しており、ESG経営を進める上では、省資源、地球温暖化、生物多様性保全などの環境側面や、人権などの社会的側面に十分配慮した「ESG調達」を行なうことが求められます。同時に、生活者、顧客の皆さまに製品を安定的に提供していくための「安定調達」も“よきモノづくり”を推進する上で、必要不可欠な要素となります。花王の購買部門は、これら2つを基軸とした責任ある調達を推進します。

これらの活動により、ESGに配慮した原材料を安定

して調達することが可能となり、生活者および顧客の皆さまが安心して花王の製品をお使いいただくことができます。

### 「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

調達におけるリスクには、原材料の安定調達に関わるリスクや、ESG調達推進により社会的責任を果たしているかを問われるリスクがあります。

### 「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

上記リスクを踏まえ、サステナブルな社会に貢献するのが「ESG調達」です。社会面では花王人権方針に基づく人権デュー・ディリジェンスの実施、「調達先ガイドライン」に基づくサプライヤーのリスクアセスメント、環境面では「原材料調達ガイドライン」に基づいたパーム油、紙・パルプの調達を推進しています。また、Kirei Lifestyle Planでは、2030年までの中長期目標を定め責任ある調達を推進しています。

これらにより、社会面・環境面に配慮したサプライヤー

から安定調達が図れ、ひいては提供する製品ブランドに対して生活者の共感を喚起し、企業の成長と企業価値向上につながると考えています。

### 貢献するSDGs





## 方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

「調達基本方針」では、購買取引の公正・公平、遵法・倫理、社会的責任の項目を定めています。社会的責任では持続可能な社会の実現への貢献をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などへの配慮を定め、遵法・倫理と合わせ「ESG調達」に対応しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条文を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。

花王の事業は自然資本に依存しており、天然資源に依存するサプライチェーンは自然資本に損害を与えるリスクがあると認識しています。パーム油や紙等の調

達に関しては原産地での森林破壊ゼロをめざしています。また、NDPE\*を支持し、サプライヤーならびにサプライヤーのグループ企業に対してNDPEの遵守を要求しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。

※ NDPE

No Deforestation, No Peat and No Exploitation, 森林破壊ゼロ、泥炭地ゼロ、搾取ゼロ



→調達基本方針

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-policy.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-policy.pdf)

→詳細は「調達先ガイドライン」

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-supplier-guidelines.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-supplier-guidelines.pdf)

→詳細は「原材料調達ガイドライン」

[www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-raw-materials-guidelines.pdf](http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/procurement-raw-materials-guidelines.pdf)

## 教育と浸透

責任ある調達を実行するためには、購買部門の社員一人ひとりが必要な知識を習得し、「調達基本方針」や各種ガイドラインを理解して行動に移していくことが

必要です。このため、さまざまな研修や啓発活動を行っています。たとえば、新卒・キャリア入社社員の導入研修、若手部員研修等で、ESG調達、安定調達、戦略的調達の理解を深めています。

## ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王は、国内外のサプライヤーとベンダーサミット、品質向上会議等を通じて意見交換を行っています。サプライヤーのモニタリングにSedexを活用し、Sedexへの加盟、回答等を求めることでサプライチェーン全体でのリスクアセスメントを図っています。また、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。

また、NGOとの対話も継続して実施しており、さまざまな視点に立った指摘に対して真摯に対応しています。

持続可能な調達やトレーサビリティの確立などをめざすSUSTAIN、JaSPONなどの団体にも参画し、他社・他団体とも活発に意見を交わしています。



## 体制

購買部門は2020年1月に組織体制を変更しました。ESG調達、安定調達および競争力向上に向けた戦略調達の3つの方針を戦略的にコーディネートして競争優位性を実現することにより、全ステークホルダーに対して「責任ある調達」を推進します。購買部門の戦略および活動は経営会議への報告を通して、取締役会へ報告しています。また、年1回グローバル購買会議を開催し、花王グループの調達戦略、ESG戦略、サプライチェーン管理方法等について情報を共有しています。ただし、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止および部門体制変更のため開催を見送りました。



→ ESG推進体制について詳細はP18「ESG推進体制」

## 中長期目標と実績

### 中長期目標

#### 1. 持続可能な原材料の調達

花王は、資源制約や地球温暖化などの環境問題、生物多様性の劣化、人権課題など、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組みます。

パーム油・パーム核油の調達においては、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロをめざします。また、2025年までに消費者向けおよび産業用途向けに使用するパーム油を100%RSPO認証油とすることをめざし、さらに、2025年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認完了をめざします。紙とパルプの調達においても、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロをめざし、2025年までに家庭用製品に使用する紙製品およびパルプを100%認証品とすることをめざします。

#### 2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定めました。花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施しています。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2025年までにサプライヤーのデュー・ディリジェンスの実施率を

100%とすることをめざします。

#### 中長期目標を達成することにより期待できること 事業インパクト

関連する環境面および社会面のさまざまなリスクを低減し、コストを抑制することに寄与します。また、ブランドイメージおよび社会的信用の向上につながります。

#### 社会的インパクト

サステナブルな生活に欠かせない、暮らしを支える製品を、必要な時に利用できる生活を提供することができます。



## 2020年の実績

### 実績

#### 1. 持続可能な原材料の調達

- ・パーム油・パーム核油の調達  
サプライヤー情報によるパーム搾油工場までのトレーサビリティの確認:完了  
ミルリスト公表(ミル名、所在地):完了  
認証油の調達:消費者向けに使用されるパーム油全量に相当する量のRSPO認証油を調達



→2020年度ミルリスト  
[www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/procurement/procurement-progress/progress-2020/](http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/procurement/procurement-progress/progress-2020/)

#### ・紙・パルプの調達<sup>※1</sup>

トレーサビリティの確認100%  
うち、紙・パルプの認証品比率<sup>※2</sup>94% (2020年12月時点)

※1 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。  
※2 紙・パルプの認証品比率は調達品目ごとの認証品重量の比率を集計しています。



→詳細はP83「具体的な取り組み:持続可能なパーム油・パーム核油の調達の取り組み」  
→詳細はP85「具体的な取り組み:持続可能な紙・パルプの調達の取り組み」

#### 2. 人権への取り組み

- ・ Sedexによるアセスメントを2017年から実施しています。2018年よりアセスメントの対象をグローバルに拡大しています。
- ・ Sedexによるサプライヤーのリスクアセスメントでの総合評価(2020年12月時点):S評価17%、A評価37%



→詳細はP85「具体的な取り組み:サプライヤーのモニタリングにSedexを活用」

2020年、花王、アピカルグループ、アジアナグリは3社は、パーム油の産地であるインドネシアにおける森林破壊、パーム農園で働く労働者の労働環境、児童労働などの社会問題解決に向けた小規模農園支援プログラム「SMILE」の開始を公表しました。



→詳細はP84「具体的な取り組み:小規模パーム農園の支援」

### 実績に対する考察

パーム油の原産地(パーム農園)までのトレーサビリティの確認については、パーム搾油工場およびサプライヤーが所有する自社農園までの追跡を完了しました。引き続き、中小規模の農園までの確認をサプライヤー、農園、NGO、専門家および第三者機関などさまざまなステークホルダーと連携して進めていきます。また、リスクアセスメントにより要観察と判定されたパーム搾油工場については順次確認を進めていきます。RSPO認証油の購入については、消費者向けに使用されるパーム油全量に相当する量を調達しました。今後、産業用途にも拡大を推進します。

紙・パルプの原産地までのトレーサビリティは2019年に引き続きほぼ100%となり、認証品比率は94%となりました。2025年100%達成に向けて、引き続き小規模のサプライヤーに対して認証品の導入、サステナビリティの確認を働きかけます。

人権への取り組みについては、グローバルの直接材全サプライヤーに対してSedexへの加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。2020年末時点でグローバルの取引の83%(金額ベース)がSedex加盟会社(代替プログラム、花王SAQ含む)との取引となりました。今後さらにSedexへの加盟を求めるとともに、アセスメント結果が低いサプライヤー(B評価、C評価、回答率80%未満)には改善を求めています。



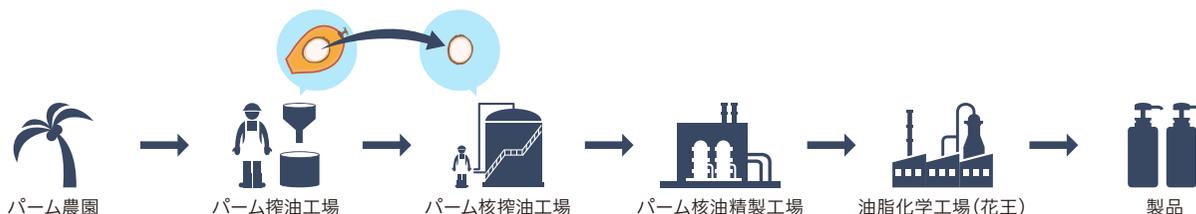
## 具体的な取り組み

### 持続可能なパーム油・パーム核油の調達の取り組み

花王は、原材料調達ガイドラインにてNDPE<sup>※1</sup>を遵守しています。また、サプライヤーならびにサプライヤーのグループ企業に対してNDPEの遵守を強く要求するとともに、人権擁護者への暴力、不当告発、脅迫を容認しません。また、NDPE方針とHCSA<sup>※2</sup>の考え方を遵守するサプライヤーからの購入を推進します。さらに、サプライヤーに対して第三者監査(SMETA監査)を実施し、遵守状況の確認を進めていきます。

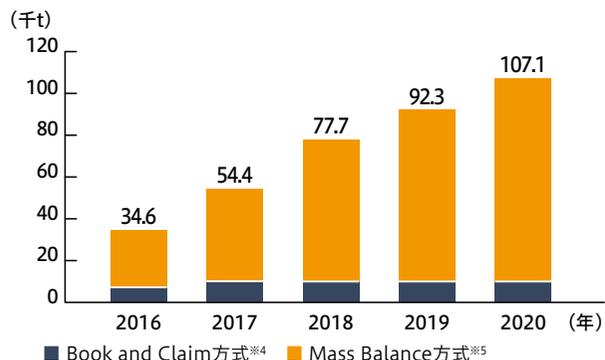
上記方針の下、原産地までのトレーサビリティの確認やRSPOのメンバーとしての活動を通じて持続可能なパーム油・パーム核油の調達に努めています。

#### パーム油・パーム核油の調達



2030年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認

#### 認証油購入実績<sup>※3</sup> (花王グループ)



- ※1 NDPE  
No Deforestation, No Peat and No Exploitation, 森林破壊ゼロ、泥炭地ゼロ、搾取ゼロ
- ※2 HCSA  
High Carbon Stock Approach, 高炭素貯留アプローチ
- ※3 パーム油・パーム核油およびその誘導体の合計
- ※4 Book and Claim 方式  
RSPO 認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPO により認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができる。
- ※5 Mass Balance 方式  
RSPO 認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

### 「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2020年実績

パーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロをめざし、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標	2020年実績
① 2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。	パーム搾油工場までのトレーサビリティの確認を完了
② 2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファインナリー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV <sup>※1</sup> )森林、炭素貯蔵量の多い(HCS <sup>※2</sup> )森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。	パーム搾油工場の特定と周辺の森林破壊モニタリングを完了 リスクの高いパーム搾油工場の調査を継続 ウェブサイトでミルリストを公開
③ 2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。	2020年の消費者向けに使用されるパーム油全量に相当する量のRSPO認証油を調達。今後、産業用途にも拡大を推進 油脂サプライヤーが管理する自社農園までの追跡完了、中小農園までの確認を継続
④ 2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS 認証取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。	RSPO SCCS 認証取得: 国内外のグループ工場およびオフィスについて、2018年に取得完了

※1 HCV(High Conservation Value)  
※2 HCS(High Carbon Stock)



## 小規模パーム農園の支援

花王、油脂製品製造・販売会社のアピカルグループ、農園(プランテーション)会社のアジアナグリ(AGRI)の3社は、パーム油の持続可能なサプライチェーンの構築をめざし、インドネシアの小規模パーム農園の生産性向上、持続可能なパーム油に対する認証の取得を支援するプログラム「SMILE」(Smallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment program)の開始を公表しました。

パーム油の産地であるインドネシアでは、新規農園開発における森林ならびに野生生物の生息地の破壊、先住民の人権侵害、パーム農園で働く労働者の労働環境、児童労働などが大きな社会問題になっています。

特に、インドネシアでパーム果実の生産量の約40%を占める小規模パーム農園では、生産技術に関する情報の不足による低い生産性に加え、貧困や劣悪な生活環境など、さまざまな課題を抱えており、その取り組みはまだ道筋が見えていない状態です。

3社は、こうした小規模パーム農園が抱える課題の解決に向けて、協働で支援を実施。生産者と対話をしながら、生産性向上に向けて農園の管理方法や技術を指導していきます。そして、収穫量の増大による新規農園開発の抑制、持続可能なパーム油に対する認証の取得支援、生産者の生活の改善・向上をめざします。

## 支援の概要

### ●支援内容

支援対象となる小規模パーム農園に対し、経験豊富な農園管理・技術指導グループを編成。農園を訪問し、以下3点を実施します。

1. 持続可能性に配慮した生産管理方法と生産性向上に向けた教育
2. RSPO認証取得に向けた支援
3. 安全な作業方法に関する教育と、ヘルメット・手袋などの安全対策器具の支給や消火器の設置等

### ●実施期間

2020年～2030年の11年間

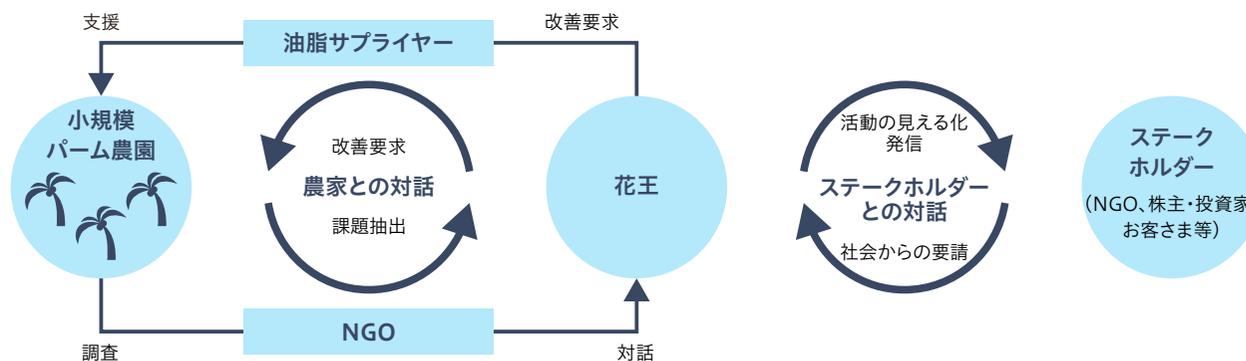
### ●実施場所

インドネシア北スマトラ州・リアウ州・ジャンビ州

### ●目標値

対象小規模パーム農園数:約5,000件(農地面積:約18,000ヘクタール)

## 小規模パーム農園支援活動の全体像



パートナーと協働による現場での直接対話とサプライチェーンの改善活動を行ない、その活動の見える化・公表することで、持続可能なパーム油調達のグローバルプラットフォームをめざす

## 農業資材「アジュバントシリーズ」の提供

さらに、花王独自の支援としては、花王の長年の界面科学研究から生まれた農業資材「アジュバントシリーズ」(機能性展着剤)の提供が挙げられます。農薬を効率的に散布できるアジュバントを活用することにより、農薬使用量の削減とコスト減を実現して農家収入の安定化と環境負荷低減をめざします。

→詳細は「花王、アピカルグループ、アジアナグリがインドネシアの小規模パーム農園の支援プログラム「SMILE」を開始」  
[www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20201014-001/](http://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20201014-001/)



## 持続可能な紙・パルプの調達の取り組み

紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロをめざしています。

目標	2020年実績	2020年目標に対する達成度(%)
2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したのもののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。	追跡可能な紙・パルプ: 100%(うち、認証品94%) コピー用紙(グリーン購入品; 日本): 99%	100% 99%

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

FSC 認証紙の導入については、2013年より自社製品の包装容器への導入を開始し、2016年には日本で初めてFSC 認証を受けた段ボールを導入しました。

2020年の紙・パルプ認証品比率<sup>\*</sup>は94%(FSC 認証、PEFC 認証等)となりました。日本で使用するコピー用紙は99%が持続可能に配慮した紙(グリーン購入品)に切り替わりました。

<sup>\*</sup> 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。紙・パルプの認証品比率は調達品ごとの認証品重量の比率を集計しています。

## サプライヤーのモニタリングに Sedex を活用

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」の遵守状況の確認、リスクアセスメントに Sedex を活用しています。2014年加盟後、2016年より本格的に活用を開始し、グローバルの直接材全サプライヤーに対して Sedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。

2020年末時点でグローバルの取引の83%(金額ベース)が Sedex 加盟会社(代替プログラム<sup>\*</sup>、花王 SAQ 含む)との取引となりました。今後さらに高めていきます。

また、Sedex においてアクセス権が設定されたサプライヤーに対して、Sedex アセスメントツールによるリスクアセスメントを実施しました。このアセスメント結果をサプライヤーにフィードバックし、総合評価が“A”以上となるように、改善を要する項目について見直しを求めています。

Sedex への加盟が困難なサプライヤーに対しては、Sedex を補完する評価ツールとして、独自の調査票(花王 SAQ)も活用しています。法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目を全面改定し、2018年より海外関係会社の直接材サプライヤーの一部、国内機器サプライヤー、間接材サプライヤー(景品の製造・販売会社)について運用を開始し、2019年より国内直接材サプライヤーにも拡大しています。

新規サプライヤーの採用にあたっては、同様のアセスメントを実施しています。

<sup>\*</sup> EcoVadis 等 Sedex に代わる調査プログラム

### 2020年の Sedex によるサプライヤーのリスクアセスメント結果<sup>\*\*1</sup>

総合評価	SAQ 回答率 <sup>**2</sup>	Sedex リスク評価 <sup>**3</sup>	割合
S	80%以上	3.0以上	17%
A	80%以上	2.0以上3.0未満	37%
B	80%以上	2.0未満	27%
C	80%未満	—	19%

<sup>\*\*1</sup> 評価対象は Sedex の新 SAQ (自己評価アンケート) に回答した 656 サイト

<sup>\*\*2</sup> Sedex の新 SAQ に対する回答率

<sup>\*\*3</sup> Sedex アセスメントツールによるマネジメントコントロールスコアの値(0~5、値が大きいほどマネジメントが良好)

## IT 活用による原材料受発注業務の効率化

原材料の受発注について業務フローの見直しおよび IT 化を進め、販売計画に基づく原材料の需要予測を自動計算し、サプライヤーとその情報を共有する体制を整えました。

需要予測をサプライヤーと1年先の原材料所要量まで共有することができ、原材料の欠品防止や余剰生産による滞留品の廃棄削減を期待しています。これにより、余剰生産および滞留品廃棄にともなう原料(資源)、エネルギー(CO<sub>2</sub>排出)、廃棄物の削減および労働力の抑制が見込まれます。

2021年は化粧品において運用を開始し、順次、花王全製品の原材料に展開していく予定です。



また、サプライヤーと原材料リスク、生産工場場情報、ESG情報を共有するシステムの構築も進めており、一部運用を開始しました。このシステムによって常にサプライヤーと最新のリスク情報を共有し、調達リスクの早期発見や事前対応に活用する予定です。

## 花王ベンダーサミット

花王では、国内外で毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

残念ながら2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送りました。

ベンダーサミット出席会社数(単位：社)

	日本開催	日本以外開催	合計
2016年	246	279	525
2017年	245	258	503
2018年	243	230	473
2019年	239	267	506
2020年	中止	中止	—

## CDP サプライチェーンプログラム※1

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、「気候変動」「水」および「森林」についてCDP サプライチェーン

プログラムに参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。2020年の回答率は気候変動が73%、水が74%、森林が78%でした。

また、森林資源に関わる項目はCDP フォレスト※2に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

※1 CDP サプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水・森林に関わる情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

※2 CDP フォレスト

CDPによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。

## サプライヤーへの満足度を調査

花王は、自身が公正・公平な調達活動を行なっているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を概ね3年ごとに実施しています。

2020年に調査を実施し「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等について210社のお取引先より貴重なご意見をいただきました。

価格交渉および発注先選定の公正性、接客態度、企業倫理面については高い評価をいただきました。一方、発注後の変更、不採用の内容開示、互いの情報のやりとりに課題があることが分かりました。発注後の変更については、関連部門と情報を共有し改善していきます。また、不採用の内容開示および情報交換については、お取引先に納得いただけるよう十分な説明を徹底していきます。

満足度調査回答会社数(単位：社)

	原料供給会社	包材包装資材供給会社	機器・間接材供給会社	合計
2007年	48	37	44	129
2010年	55	68	44	167
2013年	71	59	45	175
2016年	78	69	52	199
2020年*	105	69	36	210

※2019年は当初計画では実施年にあたりましたが、購買部門の体制変更を進めたことから2020年の実施となりました

## 教育と浸透の例

### 従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育し、国連グローバル・コンパクトやISO26000で求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題の認識を持つようにしています。2020年は、新たに購買部門に配属された従業員8人に対し購買基本姿勢について教育しました。

### 検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、資格試験の受験を推進しています。2020年は環境社会検定試験®(eco検定®)の受験を推進し、2020年の部門在籍者の累計合格者は78%となりました。

※eco検定®:環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざす検定試験

 サプライチェーンにおける人権について詳しくは  
 → P164「正道を歩む>人権の尊重」